

トピックス

子どもの「夏かぜ」～手足口病について～

子供の「夏かぜ」についてご存知でしょうか？ 一般に「夏かぜ」と言われているものには、手や足あるいは口の中に水泡ができる「手足口病」、発熱と口の中に発疹が現れる「ヘルパンギーナ」が挙げられます。また、高熱、のどの痛み、眼の充血や目ヤニといった症状が現れる「咽頭結膜熱」も、「夏かぜ」の一つに数えられ、この病気はプールの水を介して感染することが多いことから、「プール熱」とも呼ばれています。これらの病気は、いずれもウイルスが感染することで起きる疾病です。「手足口病」と「ヘルパンギーナ」は共にエンテロウイルス属のウイルス、そして「咽頭結膜熱」はアデノウイルスの仕業で起こります。

今回は、これら「夏かぜ」と呼ばれるウイルスによる感染症のうち、「手足口病」について、ご説明したいと思います。

「手足口病」は、患者のくしゃみや咳などに含まれているウイルスによって感染します。潜伏期間(感染してから症状が出るまでの期間)は3～5日間で、通常は前述のような症状が発生しても、一週間程度ですっきり治る病気です。「手足口病」の原因は、エンテロウイルス属のウイルスですが、この「エンテロ」とはラテン語で“腸”を意味する言葉です。このことから連想されるように、この種のウイルスは一般的に“腸”などの消化管内で増殖することが知られています。

当研究所では、県内でどのような種類のウイルスが流行しているかを把握するために、県内の医療機関で「手足口病」と診断された患者から得られた検

体(患者ののどを綿棒でぬぐったもの)について、検査を行っています。2004年～2008年の5年間で143名の「手足口病」患者の検体を検査したところ、最も検出数の多かったのはコクサッキーウイルスのA群16型という種類のウイルスで、次に多かったのはエンテロウイルスの71型という種類のウイルスでした(表)。普通「手足口病」は重症化しない病気なのですが、エンテロウイルス71型という種類のウイルスが感染した場合は、髄膜炎や脳炎などの重い合併症を起こすことがあり、特に注意が必要とされています。長野県においては、2006年にこのエンテロウイルス71型による流行がありました。2008年の3月～6月には、中国本土でエンテロウイルス71型の大流行が発生し、特に安徽省では短期間に20名以上の命が奪われたことが報告されています。さらに、この流行は、中国本土だけでなく、シンガポール、香港、モンゴル、ベトナム、台湾などにも及んでいます。

病名は同じ「手足口病」であっても、原因となるウイルスの種類は数多くあり、また、年によって流行するウイルスの種類が変化します。このため当研究所では今後もウイルスの検査を継続し、経年的な流行状況を把握するとともに、エンテロウイルス71型のような重症化しやすいウイルスの流行の兆しが認められた時には、迅速に医療機関や県民の皆さんに対して情報提供していきたいと考えています。

(内山友里恵 kanken-kansen@pref.nagano.jp)

表 手足口病患者からの年次別ウイルス分離成績

分離ウイルス	分離株数					合計
	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	
コクサッキーウイルスA群2型	1					1
コクサッキーウイルスA群6型		1		1		2
コクサッキーウイルスA群9型			1			1
コクサッキーウイルスA群10型		1			2	3
コクサッキーウイルスA群16型	7	6	5	13	30	61
コクサッキーウイルスB群3型	1			3		4
エンテロウイルス71型	2		34			36
アデノウイルス2型		1				1
アデノウイルス3型			1			1
合計	11	9	41	17	32	110

研究所日記

フクロウのヒナが 無事に巣立ちました

当研究所飯綱庁舎では鳥の子育ての様子を観察したり、卵を産む日や卵の数、卵がかえる日などと気温や積雪などとの関係を調べるために、2008年の早春から敷地の林に巣箱を設置しています。フクロウ用の大きな巣箱を一つとヒガラやシジュウカラ用の小さな巣箱を約30個です。取りつけたその年からフクロウが子育てのために、その大きな巣箱を利用し、3羽のヒナが5月26日に巣立ちました。そして、今年も2羽のヒナが5月20日に無事巣立ちました。

巣箱の中でフクロウはどんな子育てをしているのでしょうか。外からは知ることができない子育ての様子を観察しようと小型カメラを巣箱に設置し、カメラからケーブルをひいて映像を庁舎内で観察したり録画したりできるようにしました。その映像を見ると興味深いことがいくつかわかりました。まず、フクロウは夜行性で夜に活発に活動すると言われていますが、子育ての時は昼でもよく餌をもってくることです。つまり、忙しいときは昼夜を問わず活動しているようです。夜に目がきく分だけ、いざとなったら私たち人間よりも活動できる時間帯は広いかもしれません。つぎに、フクロウのヒナは兄弟げんかをしないということです。多少のつつきあいがありますが、私たちにはじゃれあっているように見え、基本的には仲良く暮らしています。オオタカなどでは、兄弟間の争いが激しく、時に兄弟殺しに発展することもあります。昨年と今年はフクロウの食べ物であるネズミやモグラなどが多くいたのかもしれませんが。そのため、エサをめぐる争いが少なかった可能性もあります。このことについてはもう少し事例を集める必要がありそうです。

ヒナはおなかがいっぱいの時は、巣の底にべたべたと腹ばいに寝ているか、立っていてもうたた寝をして、時々ビクッとしておきたりします。そろそろおなか空いたなあとと思うと巣内をせわしなく動き回ったり、首をくるくるまわしたりしています。その仕草はとてもユーモラスで、見ていて飽きません。

今回の撮影はフクロウの行動にあまり影響がないように、昼間だけ行いました。夜行性であるフクロウの本当の姿をみていません。また、今回はカメラを巣箱の天井につけ、真下を撮影するようにしました。そのため、巣箱に大きな親がはいると、ヒナが親に隠れ、親の下で何をしているのか全く見えませんでした。来年以降、フクロウの活動に影響を与えないように工夫したうえで、夜間の照明をしたり、カメラを巣箱の横につけるなどして、フクロウの子育ての様子がより明らかになるようにしたいと考えています。そして、来所された方にも今年同様にライブ映像が見れるようにして、可愛らしいフクロウの様子を観察していただけるようにしたいと思っています。

(堀田昌伸 kanken-shizen@pref.nagano.jp)



巣の入口にとまり外の様子をうかがう
巣立ち間近のヒナ